

第3学年 社会科学習指導案

指導者 飯岡 伸恭

1 単元 現代の民主政治

2 単元の目標

- (1) 国民の積極的な政治参加が議会制民主主義を支えていることに気付き、政治に関心をもち、積極的に関わっていこうとする。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 政党の役割や選挙制度、世論などの政治参加の方法について多面的・多角的に考察する活動を通して、自分の考えをまとめることができる。 (社会的な思考・判断・表現)
- (3) 政党や選挙に関する資料を新聞記事やインターネットなどから収集し、政治の動向や課題を把握する。その際、新聞などのマスメディアの情報を利用するときには、様々な角度から批判的に読み取ること (メディアリテラシー) が重要であることに気付くことができる。 (資料活用の技能)
- (4) 政治とは、社会生活上の対立や争いを調整・解消し、自由と権利を保障するために行われることを理解することができる。また、多数決の原理や選挙の仕組み、政党や世論の役割などについて理解させる。 (社会的事象についての知識・理解)

3 単元の指導

本単元は、学習指導要領解説社会編の、公民的分野の内容（3）のイを受け、単元構成したものである。ここでは、身近な生活と政治の関わりから、自治とは何か、議会制民主主義を取り入れているのはなぜか（なぜ議会を通して政治を行うのか）、民主政治をより良く運営していくためにはどのようなことが必要かについて理解させたり、主権者として政治に参加することの意義について考えさせたりすることなどを主なねらいとしている。また、民主政治を推進するためには、公正な世論の形成や国民の政治参加が必要になることを国民の政治参加と関連付けて考えさせなければならない。

本学級において実態調査を行ったところ、社会の出来事に关心を持っている生徒は比較的多いことがわかる。しかし、テレビニュースの端的な情報や、一つの新聞から得る情報を頼りに世の中の動きを知る程度であり、複数の情報を比較して考えたりする生徒は非常に少ない。また、そこから自分の考えを明らかにするような活動は、ほとんどの生徒が経験したことがない状況である。

そこで本単元では、はじめに生徒の最も身近な政治である地方自治について、架空の市の事例を基に考えることを通して、民主主義の重要性について理解させる。次に、各政党の政策に関する資料から、政党の役割を理解させることで、国政に关心をもたせ、自ら政治に参加しようとする態度を育成する。さらに、実際の選挙を例に、日本の選挙制度や、世論の形成が政治に与える影響について理解させる。その際には、新聞記事が世論の形成に与える影響について考えることを通して、情報を批判的に読み取ること (メディアリテラシー) の育成にもつなげたい。

4 指導計画（7時間取り扱い）

時	学習内容・活動	評価規準
1	新聞記事の読み取りをする。	新聞記事や社説の内容を的確に読み取り、主張の要点を捉えている。(技)
2	架空の市の市長の立場から企業跡地の活用について考える。	市の課題を踏まえ、課題解決や将来の展望について自分の考えをまとめ、発表している。(思・判・表)
3	政治の目的を理解するとともに、民主主義とは何か、なぜ議会制民主主義が採用されるのかについて理解する。	議会制民主主義において、多数決の原理と少数意見の尊重が重要なことを理解している。(知・理)
4	政党の役割を理解するとともに、政権公約の比較を通して政党や日本の政治について関心をもつ。	日本の政党政治の動向や課題への関心を高めている。インターネットなどを活用して各政党の政策に関する資料を収集し、読み取っている。(技)
5	選挙の重要性を理解し、作業的な活動を通して選挙制度のあらましをつかむ。	選挙の意義と日本の選挙制度のあらましについて理解している。
6	選挙以外の政治参加の方法について、具体的な事例を通して、理解している。	多様な政治参加の方法について理解している。
7	公正な世論形成のために、新聞記事の比較から考察する。	複数の新聞記事や社説の比較を通して、新聞記事の違いに気付き、まとめることができる。

5 本時の指導

(1) 目標

新聞記事の内容を的確に読み取り、複数の記事の比較を通して、根拠に基づいた考察をすることができる。

(2) 準備・資料

7月2日付の○○新聞・△△新聞の新聞1面と社説のコピー、ワークシート

(3) 準備・資料

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
1 本時の学習課題を知る。 集団的自衛権について書かれた2つの新聞社の記事は、どうして全く異なる見出しがなのだろう。	・集団的自衛権の行使容認の憲法解釈が閣議決定されたことを報じた2社の新聞の一面を見せ、報じ方が異なることから、各社の考えに違いがあることをつかせる。
2 集団的自衛権について知っていることを挙げさせ、集団的自衛権の大まかな概略を知る。	・偏った意見にならないよう、集団的自衛権の意味や、容認される内容の部分について、事実のみを簡単に伝える程度にする。
3 集団的自衛権の行使一部容認の憲法解釈が閣議決定されたことを報じた2社の新聞の一面と社説から、各社の主張の要点とその根拠を読み取る。 ・賛成を主張する新聞と、反対を主張する新聞を読見 取るグループにそれぞれ分かれ読み取りをする。	・一面の見出しとともに、社説の内容から、各社の主張の要点を読み取る。その際に、要点をスムーズに導き出せるよう、事前に社説の文章を「事実」と「意見」に色分けしておく。 ・各社の意見が、新聞の見出しにどのように反映されているかを考えられるよう助言し、見出しの付け方の違いに気づくことができるようする。
5 意見交換をし、深め合う。 ・賛成の記事を読んだグループと反対の記事を読んだグループをそれぞれ解体し、両方の記事を読んだ人が入るよう再編成する。 ・全体での交流をする。	・各社の主張の要点をワークシートに整理し、一目で主張の違いがわかるよう配慮する。 ・発表者が根拠としている部分を批判的に聞き、反対意見を述べる際にも根拠に基づいた主張ができるよう助言する。
4 各社の主張の比較を通して、根拠に基づいた考察を記入する。	・考察を書く場合には、必ず社説の中の文章を根拠とするよう助言する。 ・あくまでも個人の考察なので、生徒がグループや全体で意見をまとめることのないよう配慮する。
5 本時のまとめと振り返りを行う。 2つの新聞社の一面の見出しが違っているのは、新聞には事実以外に新聞社の考え方や意見が書かれているためである。 新聞社によって書かれていることが違うので、全て鵜呑みにするのではなく、自分自身で考えることが必要だと思った。	評 複数の記事の比較を通して、新聞記事の違いに気付き、自分の考えをまとめることができる。 (社会的な思考・判断・表現)